

JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y

Web版
JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>



2面

中国・貴州省政府が
全農を表敬訪問
(耕種資材部)

4-5面

全農の物流「2024問題」
への取り組み
(経営企画部)

配送先変更(住所・宛名)、
配布部数変更はこちら



写真提供: 青森県本部

News!



中国・貴州省政府が全農を表敬訪問

リン酸肥料原料の安定確保に向け協力関係の強化を確認

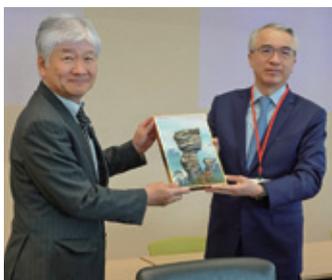
耕種資材部



大手町のJAビルを訪問した貴州省政府一行

全農は、リン鉱石やリン安の主要サプライヤーである中国の益福集団おひくと継続的に良好な関係を築いています。同社の本社はリン鉱石の主要産地である貴州省に位置しており、5月に同省の蔡朝林副省長が来日し、全農の安田忠孝代表理事専務と面談しました。

全農は、1990年に初めて同省からリン鉱石を購入して以降、リン安や重過石などのリン酸肥料も購入しています。2009年には益福集団と戦略的パートナーシップ協定を締結し、関係を強化してきました。現在、中国では肥料の輸出に対して法定検査が導入されるなど、肥料原料の輸出が厳しくなっていますが、貴州省関係者や益福集団の協力を得な



蔡副省長(右)から記念品を受け取る安田専務

がら、必要な数量の確保に努めています。安田専務からは、リン酸肥料の引き続きの安定確保を依頼。蔡副省長からは、長年にわたる協力関係について謝意が伝えられ、今後協力関係をより一層強化していくことを双方で確認しました。中国の輸出制限は継続していますが、全農では肥料原料の安定確保の実現のため、海外の関係先とのさらなる関係強化に取り組んでいきます。

News!



日清食品(株)と生産者交流プロジェクト

加工用米産地のJA秋田おぼこで田植え体験

米穀部



手植え体験を行う日清食品(株)の深井雅裕常務取締役(左)と全農の高尾雅之常務理事



プロジェクトに参加した関係者

全農は5月27日、秋田県のJA秋田おぼこ管内の圃場ほじょうで日清食品(株)とともに生産者交流の場として田植え体験を実施しました。全農と日清食品(株)は、2023年10月から国産農畜産物の供給と物流に関する包括的な連携を開始しています。

日清食品(株)から「産地や生産者をより深く理解する機会を設けたい」との要望を受け、今回の生産者交流プ

ロジェクトを発足しました。

日清食品(株)が手がける「日清力レーメシ」などのカップライス商品には、全農が供給する加工用米が一部原料として使用されています。また、同JAは、全国有数の加工用米の産地であることに加え、2024年の5カ年にわたって全農と加工用米の長期契約を行っていることから、今回同JA管内での開催となりました。

田植えを体験した日清食品(株)の深井雅裕常務取締役は「お米がどのようになり、生産者がどういった思いでお米を作っているのかを知ることができた。自社商品に対する思いも変わってくる」と感想を述べました。

リンゴ高密度植わい化栽培普及へ

青森県営農大学校に実践農場を開設

青森県本部



学生と高密度植わい化栽培のリンゴを定植する成田県本部長(右)

県本部は農場に点滴かん水装置、遮光資材などの栽培用資材を設置し、同校の果樹課程で栽培技術を学ぶ学生の実習を支援しています。

コンパクトな木を狭い間隔で育てるリンゴ高密度植わい化栽培は、一般的な丸葉栽培と比べて成園化が早く、作業効率が良くなることから、高齢化や後継者不足でリンゴ農家が減少する中、生産性に優れた栽培方法として注目されています。

青森県本部は5月9日、リンゴ農家の担い手育成や高密度植わい化栽培の普及を図るため、七戸町の青森県営農大学校に実践農場を開設しました。約10アールの実践農場には、2026年までに約400本の苗木を植える予定です。



実践農場で行われた記念セレモニー

同日行われた記念セレモニーには、成田具洋県本部長や宮下宗一郎青森県知事、同校の松江利英校長のほか、学生約50人が出席し、「ふじ」と「シナノゴールド」の苗木100本を定植しました。

成田県本部長は「次世代を担う若者たちに栽培技術を学んでもらい、リンゴの生産基盤を維持したい」と話しました。

「カルピスソーダ® 冷やしパイナップル」6月25日発売

アサヒ飲料(株)とのコラボ第4弾、沖縄県産果汁を使用

営業開発部・酪農部



カルピスソーダ® 冷やしパイナップル

全農がアサヒ飲料(株)の「カルピス®」とコラボレーションした商品の第4弾「カルピスソーダ® 冷やしパイナップル」が、6月25日からアサヒ飲料より発売されます。

「カルピスソーダ® 冷やしパイナップル」は100年以上受け継いできた乳酸菌と酵母、発酵という自然製法から生まれた「カルピス®」に、沖縄県産パイナップル果汁を組み合わせた炭酸飲料です。沖縄県産パイナップル果汁を使用することで甘じゅっぱさとし心地よいのどごしが楽しめる商品に仕上がりました。

パッケージは、明るい青の配色と氷を描くことで夏の雰囲気演出。さらに、お祭りの氷旗をモチーフに「冷やしパイナップル」の商品名を記したデザインにしました。また商品の下部と裏面に全農の商品ブランド「ニッポンエール」のロゴを配置し、商品が全農とアサヒ飲料が日本の農畜産物を応援する取り組みであることをPRしました。

全農とアサヒ飲料は、今後も「カルピス®」ブランドをはじめとして、国産食材を使用した商品を通じたコラボレーションにより日本各地のおいしさを全国へ届けていきます。

※「カルピス」「CALPIS」はアサヒ飲料の登録商標です。

全農の物流「2024問題」への取り組み

持続可能な「農業」と「食」の提供を支える物流体制構築へ

全農は、持続可能な「農業」と「食」の提供のために、物流事業者・取引先と連携して物流の適正化・効率化に取り組んでいます。

【経営企画部】

図1：最近の物流に関する主な行政動向

農林水産省	経済産業省	国土交通省
2023年6月	第2回我が国の物流の革新に関する関係閣僚会議 「物流革新に向けた政策パッケージ」	
2023年6月	「物流の適正化・生産性向上に向けた荷主事業者・物流事業者の取組に関するガイドライン」業界・分野別に「自主行動計画」の作成を呼びかけ	
		2023年7月 トラックGメン設置
2023年10月	第3回我が国の物流の革新に関する関係閣僚会議 「物流革新緊急パッケージ」	
2024年1月～	農林水産品・食品に関する 官民合同タスクフォース	
2024年2月	第4回我が国の物流の革新に関する関係閣僚会議 「2030年度に向けた中長期計画」	
		2024年3月 新たな「標準的な運賃」 を告示
2024年4月	「流通業務の総合化及び効率化の促進に関する法律及び貨物自動車運送事業法の一部を改正する法律」成立(5月公布)	

内閣官房：
我が国の物流の革新に
関する関係閣僚会議



農林水産省：
農林水産省物流対策本部、
農林水産品・食品の物流に関する
官民合同タスクフォース



国は物流改善を目的に
規制的措置導入へ

国は、働き方改革関連法の施行により2024年4月1日以降、自動車運送業務の年間時間外労働時間の上限を960時間に制限し、トラック運転手の労働環境改善を図っています。一方、物流の停滞が懸念される「2024年問題」に対応するため、昨年6月に公表した「物流革新に向けた政策パッケージ」を受けて、今年5月には「流通業務の総合化及び効率化の促進に関する法律及び貨物自動車運送事業法の一部を改正する法律」を公布しました。(図1) 改正物流関連法では、全

JAGグループの物流業務の
適正化・効率化へ

このような情勢の中、全農は昨年12月に「自主行動計画」(表1)を公表しました。物流事業者・取引先と協力し、物流業務の適正化・

- 効率化に向けて、主に次のことに取り組みます。
本会都合による長時間の荷待ちや荷役作業などが発生している拠点では、入出庫時間の分散やパレット活用などによるトラック運転手の拘束時間短縮
 - 長距離輸送では、モーダルシフトや幹線物流と地域配送の分離、集荷・配送拠点の集約などによるトラック運転手の拘束時間短縮
 - 共同配送などの取り組み促進による貨物積載率の向上
 - 物流事業者との契約内容の遵守、運賃改定などの要請に対して真摯に協議
- 今年1月には、全中と共同で「JAのための物流改善にかかる手引き」(図2)として、物流をめぐる情勢、物流事業者の主な現場課題、物流効率化に向けた取り組み事例などをまとめたパンフレットを作成・配布し、JAGグループの物流改善に向けた理解醸成に取り組みました。

表1：自主行動計画（概要）

区分	項目	実施・検討事項
物流業務の効率化・合理化	①入出庫時間・荷役作業などの内容把握	入出庫記録、予約システム、物流事業者の管理情報などの活用
	②荷待ち時間などの短縮	入出庫の集中抑制、検品効率化、パレット活用など
	③運送手配への協力	納品リードタイムの見直し、安全運行への配慮
	④荷役作業・付帯作業の効率化	パレットなどの活用促進、デジタル化・自動化など
	⑤パレットなどの標準化	国が示すT11型パレットを基準に検討
	⑥長距離輸送への対応	モーダルシフト、幹線輸送の分離、集荷・配送拠点の集約など
	⑦積載率の向上	業界・グループ内での共同配送など
	⑧物流管理体制の強化	物流統括者の設置
運送契約の適正化	①運送契約	運送契約の締結、双方合意事項の遵守
	②真摯な協議の実施	物流事業者や取引先からの要請に対する真摯な協議
	②適切な下請け取引の要請	輸送元請け事業者に対する適切な下請け取引依頼
輸送・荷役作業などの安全の確保	①安全な運行への協力	異常気象時などの安全運行依頼、中断・中止判断の尊重
	②荷役作業時の安全対策	安全作業基準の順守徹底、損害賠償責任の明確化

図2：JAのための物流改善にかかる手続き

03 物流事業者の主な現場課題

■農産物物流の現場における物流課題
「物流2024年課題」をふまえ、皆さんの物流現場において想定される物流課題を記載しました。
この先も農産物物流の物流を安定・継続的に行うには、パートナーである物流事業者と共に、これらの物流課題をよく理解し改善に向け取り組む必要があります。

（1）長時間の荷待ち時間の発生
農産物の物流拠点（倉庫・工場・市場等）では長時間の荷待ち時間が発生しやすい環境にあります。
発着荷主それぞれが輸送条件を見直すことで荷待ち時間の削減につながる場合もあります。自分たちの手配する輸送では下記のような実態が頻りに確認してみましょう。

（2）長時間の荷役・付帯作業時間の発生
トラック運転手へ長時間となる荷役作業や付帯業務を実施させていませんが、農産物業界では、品目特性もあり長時間となりやすい傾向があります。
これらは、運転手の長時間労働や過労につながるため、手荷役作業や付帯業務の削減にかかる対策を考えてみましょう。

（3）荷主からの悩ましい依頼
物流事業者は荷主の要求に対し、振りづらい立場にあります。物流事業者との契約内容に応じた適正な取引条件と現場実態の乖離は発生していないでしょうか。

料金設定
輸送にかかるコスト転嫁
農産物・チャーター車と高価な燃料の差額を求められはじめても納得できない、やっとならぬ

契約条件
運送契約に記載のない荷役・付帯業務の指示
契約には記載のない業務だけ、指示されたら断れないかな...

輸送条件
不合理な到着時間の設定
高額の運賃が設定されているから、出発時間が2時間遅れるけど、到着時間はそのまま終わるよ

輸送条件
積み込み前に貨物量を増やすような急な輸送依頼
途中でこの荷物も運んでくれる？
この荷物も積んだら到着時間が遅くなるし過労になるかも...

皆さんの物流現場ではどのような課題があるのか調べてみよう！
厚生労働省のポータルサイトでは、実際にみなさんの物流現場にどのような課題があるか診断できる「簡単自己診断」サイトがあります。実際に自己診断してみましょう。

パートナーとの共存共栄
物流品質向上・高度化へ

これまで全農グループでは「青果物輸送」では①中

継拠点の整備などによる長距離輸送対応②複数JA・県域での共同輸送による積載率向上③段ボールサイズ変更によるパレット輸送対応、「米穀輸送」では①全農

パレチゼーションシステムや全農統一フレコン導入による手荷役削減②JR貨物と連携した米専用貨物列車「全農号」による長距離輸送対応③全農の原料米と日清食品（株）のカップライス製品とのラウンド輸送による輸送効率向上、「肥料輸送」ではブロック単位での共通パレットを用いた手荷役削減などに取り組んできました。
今後は、改正物流関連法の規制的措置に適切に対応しながら、パートナーである物流事業者や取引先とのさらなる連携強化により物流品質向上・高度化にチャレンジし、持続可能なJAグループのサプライチェーン構築に向けて取り組みます。また、国に対しては、物流効率化に向けた農業施設や輸送機器の整備支援、パレット導入や施設整備費などの負担が生産者に偏らないための支援を引き続き求めていきます。

「JA全農WCBF少年野球教室江戸川教室」を開催

3年ぶりに王貞治理事長が参加

全農は、王貞治氏が理事長を務める（一財）世界少年野球推進財団（WCBF）が5月11日に東京都江戸川区のJPAセフトスタジアム江戸川で開催した「JA全農WCBF少年野球教室」に特別協賛しました。

【広報・調査部】



バッティングの指導をする王理事長

教室は、子どもたちの健やかな心身の成長と、未来の夢を応援することを目的に毎年各地で開催し、今年で32年目を迎える歴史ある



開校式であいさつする全農経営管理委員会の折原敬一会長



バッティングのお手本を見せる里崎講師

る教室です。今年度は江戸川教室を皮切りに島根県出雲市、石川県小松市、静岡県浜松市、福島県会津若松市で開催します。

豪華講師が熱血指導

少年野球チーム14チーム、小学生、指導者、保護者ら合計269人が参加。3年ぶりに参加した王理事長や、五十嵐亮太氏（ヤクルトOB）、里崎智也氏（ロッテOB）、中

講師・参加者に商品提供

全農東京都本部の梅沢治政副本部長から講師陣へ東京都産豚肉「TOKYO X」を贈呈したほか、参加者全員に、全農から「包装餅」や「ミルクティー」、そのほか協賛各社から国産農畜産物などを

「食」の大切さを広く伝えるとともに、子どもたちの夢や成長を応援していきます。



参加賞



都本部の梅沢副本部長（右から4人目）が「TOKYO X」を講師陣に贈呈

各社提供品一覧

提供社	商品名
全国農協食品㈱	「山形つや姫玄米茶」
全農パールライス㈱	こめつぶ丸マスキングテープ マロくんどこめつぶ丸の福島県産コンヒカリ レシピパンフレット
JA全農青果センター㈱	「みんなのやさい」けんちん汁・豚汁用 「みんなのやさい」肉じゃが・カレー用
JA全農たまご㈱	ロジンパック（卵の殻をアップサイクルしたもの）
JA全農ミートフーズ㈱	クリアファイル2種
全農チキンフーズ㈱	巾着袋 カトラリーセット
雪印メグミルク㈱	「北海道牛乳」、スキムミルク
全農東京都本部	「ニッポンエール東京都産東京ゴールドキウイグミ」 「東京小松菜みそ汁」
全農	餅、レシピ本、ミルクティー

王理事長によるバッティングの基本指導では「一人一人打ち方は違っていい。基本は、下半身を使い、ボールをよく見て打つこと。うまくなるには練習と工夫をすることが大事」とアドバイスがありました。また、指導者を対象とした子どもたちへのトレーニング方法や、保護者を対象にした成長期の子どものスポーツ栄養管理に関する講習も行いました。



保護者向けのスポーツ栄養教室



「黒部米」のブランド力向上

農業所得増大へ園芸を推進

JAくろべは、富山県の北東部に位置する黒部市を管内とし、黒部峡谷を流れる清流黒部川の豊富な水に恵まれ、名水の里と呼ばれる地域です。管内の農地のほとんどが水田で、米・大豆・大麦の主穀を中心に、種子^{たね}・米粉^{こな}や特産品

**地域団体商標「黒部米」
新倉庫稼働で高品質に**

全国初の米の地域団体商標登録となった「黒部米」のさらなるブランド力向上に向けて、2024年8月には農業用倉庫「黒部市農協西部倉庫」の稼働を予定しています。倉庫は電動式移動ラックを備え、約6万俵の米が収容可能となる予定で、今後高品質な黒部米の生産振興に取り組みます。

**水田を活用し白ねぎ栽培
選別の機械や施設を整備**

組合員の所得増大と生産体制の強化を図るため、園芸



白ねぎ栽培を推進



8月に完成予定の「黒部市農協西部倉庫」のイメージ



農林水産物直売所「瑞彩マルシェ」

作物を導入した複合経営の推進にも取り組んでいます。中でも、年間を通して安定的な販路があることや機械化が進んでいることから、主に白ねぎの栽培を推進。生産の

JAくろべ (富山県)



拡大・定着や、生産者所得の増加を目指し、大規模生産者には選別機導入による個人選別を推奨しています。

さらに、ハウス導入助成、予冷用冷蔵設備の拡張、皮むき選別作業ラインの一新など選別を請け負う体制も整えてきたことで、黒部秋冬ねぎ生産組合の販売高は22、23年と連続して1億円を達成しました。

**園芸需要の掘り起こしへ
農林水産物直売所を設置**

園芸作物の新たな需要の掘り起こしと販売先の拡充を目指して、22年に農林水産物直売所「瑞彩^{みずいろ}マルシェ」をオープンしました。県の北東部を代表する直売所になることを目指し、管内の生産者

概要	2024年1月末現在
正組合員数	4198人
准組合員数	4949人
職員数	140人
販売品取扱高	25億3千万円
購買品取扱高	21億7千万円
貯金残高	1037億3千万円
長期共済保有高	1655億7千万円
主な農畜産物	米、種子 ^{たね} 、米粉 ^{こな} 、白ねぎ



黒部産大豆カレー

ただではなく近隣市町にも出荷者を募集。その結果現在、出荷者は250人を超えています。

商品拡充の取り組みにより来場者もオープンから1年で100万人を超えました。昨年から同JA女性部発案の「レトルトカレー」「黒部産大豆カレー」を発売するなど、新たな加工品の開発にも取り組んでいます。

JAくろべは、これからも組合員の所得増大と地域活性化を目指し、取り組みを進めます。

第18回全農学生「酪農の夢」コンクール

今回から学校賞を新設、9月10日まで作品募集中

全農は、酪農の将来を担う学生・生徒の皆さんを対象とした「酪農の夢」コンクールの作品を9月10日まで募集しています。今年は、優れた作品を多く寄せていただいた学校を表彰する「学校賞」を新設しました。【酪農部】

コンクールは、今年で18回目となります。若い皆さんの酪農にかける大きな夢を熱く作文で語っていただくことで、これからの日本酪農に新たな息吹を吹き込み、活力をもたらすとともに、その一翼を担ってもらうことを目的に開催しています。最優秀賞・優秀賞・学校賞の受賞者は、11月20日に東京・大手町の日経ホールで開催する「第42回全農酪農経営体験発表会」に招待します。



第17回全農学生「酪農の夢」コンクール受賞者8人

応募要項など
詳細はこちら



夢コン2024

すこやか2024に「3-Rブース」初出展

子育て家族に耕畜連携・資源循環ブランドをPR

広島県本部は、5月25、26日に開催された「子育て応援団 すこやか2024」に耕畜連携・資源循環ブランド「3-R(さん・あーる)」のブースを初出展し、参加者へ3-Rの取り組みについてPRしました。【広島県本部】



重量当てクイズにチャレンジをする親子

「食」や「食育」について考えるきっかけを提供する同イベントでは、子育て中の家族をさまざまな方面から応援するブースを展開。3-Rブースでは資源循環型農業の大切さや、農地の維持が環境保全につながることを「3-R漫画パンフレット」を使って参

加者に説明しました。また、今年4月に新発売した3-R商品「さんあーるもみじ」に使用している「丹波大納言小豆」の重量当てクイズを行い、正解した方には「さんあーるもみじ」をプレゼントするなど、ブースは大いに盛り上がりまし

た。参加者は「とても良い取り組みだと思った。帰って子どもと一緒にパンフレットを見たい」と話しました。

JA全農の産地直送通販サイト
JAタウン ショップ紹介

you+youくまもと 農畜産物市場

「肥後グリーン」は熊本県を代表する高級ブランドメロンです。一般的なメロンに比べて収穫までに時間をかけ、温室で1玉1玉大切に育てられています。

大玉でやや縦長の楕円形をした果実は、濃い緑色で表面に細かいネット模様が出ます。美しい黄緑色の果肉は、とろけるような舌触りときめ細やかな食感が特徴です。

種の部分が少なく皮の近くまで柔らかいため、皮ざりざりのところまで存分に味わうことができます。比較的日持ちが良いため、お中元などの贈り物としても最適です。



熊本県産 肥後グリーンメロン2玉入り
・・・4980円(税込み)

ご注文は
こちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com

